

## 「北海道の生物多様性フォーラム」への出展

内藤 一明

2010年(平成22年)は国連が定めた「国際生物多様性年」でした。10月に名古屋でCOP10(締結国会議)が行われたのは記憶に新しいところですが、それに先立つ9月25日(土)、札幌ファクトリーで「北海道の生物多様性フォーラム(主催:北海道、後援:環境省)」が行われ、これに併せ「生物多様性展示コーナー」が催されました。これらの取り組みは北海道の生物多様性普及啓発事業の一環として行われ、「生物多様性わかる・感じる」がキーワードとなりました。道総研では環境科学センター、林業試験場とともに当さけます内水試が展示を行いました。

### 展示の概要

1. パネル 1枚 「生物多様性の保全に関する取り組み」

さけます内水試で行っている生物多様性に関連した調査研究や技術支援についてパネルで紹介しました(図1)。

2. 魚類の剥製 4点 サケ回帰親魚1点と外来種であるオオクチバス、コクチバス、ブルーギル3点を展示しました。

3. 水槽 4個 30cmキューブ水槽に以下の魚や甲殻類などを収容しました。展示用のため各水槽には川砂や砂利を敷き水草を配置しました。

・水槽1 甲殻類ほか:モクズガニ、スジエビ、アンモシーテス幼生(おそらくカワヤツメ)

・水槽2 サケ科魚類の幼魚:オシロロコマ、アメマス、ニジマス、サクラマス、サケ、ヒメマス

・水槽3 小型魚:イトヨ、イバラトミヨ、モツゴ、エゾウグイ、イトウ稚魚(体長3cm!)、その他:ガムシ、ミズカマキリ、ヌマガイ

・水槽4 底生魚:カンキョウカジカ、ハナカジカ、シマウキゴリ、ウキゴリ(予定)、ドジョウ、フクドジョウ

展示した魚などには種類別に写真を入れたカードを作成し、展示水槽の前に配置しました(図2)。これら展示物の配置の状況を図3に示しました。

### 当日の状況

当日の詳細な状況は図4~図8をご覧ください。展示コーナーは午前11時にオープンしました。当日朝の搬入だったため、水槽中の魚たちが環境に馴れず、隠れて出てこないのではないかと心配しましたが、砂を敷き水草を入れた水槽は居心地が良かったのか、来場者の視線にさらされながらも元気に泳いでいました。午後には試しに餌をやったところちゃんと食べていました。(普段、高密度で劣悪な環境で飼っているからだろうとは陰の声)。土曜の昼から午後にかけての開催とあって、展示コーナーには家族連れなど多くの方が訪れました。特に水槽と剥製は人気があったようです。午後にはメディアの取材もありました。なお、主催者が集計したところ道総研のブースには1000人以上が訪れたそうです。展示は成功裏のうちに午後5時に終了しました。

### 蛇足

展示は成功裏のうちに終了しました。ただし以下のふたつのアクシデントを除いては。

その1. モクズガニ恐るべし、アンモシーテスを餌食に

展示開始直後、水槽1に異変が発生しました。何とモクズガニがアンモシーテスを食べているのです!ストック中の餌が足りなかったのか・・・残ったアンモシーテスは水槽3に避難させました。モクズガニ恐るべし。

その2. 来場者恐るべし、間違いを指摘

水槽4を見ていたある来場者から質問がありました。説明のカードにあるウキゴリが見あたらないとのこと。水槽4にはウキゴリ、シマウキゴリ各2尾ずつ入れたはずだと思ってよく見ると、何とシマウキゴリばかり4尾入っていました! 前日展示魚をストック水槽に入れた時に誤ってシマウキゴリばかり入れたようです。来場者恐るべし。

(ないとう かずあき:内水面資源部主査)







図2 説明用のカード(種類別に作成)



図3 展示の概要



図4 説明用カードと魚を見比べる小さな来場者



図5 持って帰ってはいけません





図6 水槽1 空腹だった？モクズガニ



図7 水槽3 大型魚イトウの小さな稚魚



図8 水槽4 しまった、全部シマウキゴリだ！